

奨励金No.1540

# 東京・銀座における地域イメージの空間化の歴史と実践に関する研究

宮下 貴裕

武蔵野大学工学部建築デザイン学科 助教

## Practice and History of Spatialization of Regional Image in Ginza

Takahiro Miyashita,

Musashino University, Faculty of Engineering, Department of Architecture, Assistant Professor



戦後の東京・銀座において開発事業者（設計者）が表明してきた問題意識と設計思想、そして地元商店街組織・銀座通連合会の各開発への対応や独自の構想立案の動きなどを整理することで、二つの主体が銀座という街に対して見出した地域イメージと、それを踏まえて示された空間デザインアプローチの蓄積・変遷を明らかにした。そしてこれらのデータを踏まえて、今後における「銀座らしい」空間デザインの提案を、既存建築空間を活用した社会実験を通して実施した。

This paper organized the problem awareness and design philosophy articulated by designers in post-war Tokyo's Ginza, as well as the responses to each development implemented by local organizations and their movements towards unique conceptualization. We clarified the regional image and spatial design approaches discovered by the two main entities regarding Ginza, and revealed the accumulation of these data. Building upon this information, We conducted proposals for spatial design in the future through social experiments utilizing existing architectural spaces.

### 1. 研究内容

#### 1.1 研究の目的

本研究では、戦後から現在に至るまでの地元主体による都市環境デザインに関わる運動・議論と、様々な事業者によって行われてきた開発の展開に注目し、それぞれの立場から見出されてきた銀座という街の地域イメージや空間デザインの手法を把握する。そしてそれらが反映された結果と言える現状の都市環境を分析し、既存ストックを活用した「銀座らしい」空間デザインの方向性を提案する。

### 2. 開発主体によって見出されてきた地域イメージと空間デザイン手法

#### 2.1 『新建築』誌に紹介された建築物とそれらの特徴 開発主体の動きについては、専門雑誌である

『新建築』に掲載された建築紹介記事に注目し、そこに記された各種データの傾向と設計者の問題意識・設計意図などから、各建築の設計において設計者が見出した銀座の地域イメージとその空間化手法を明らかにする。

#### (1) 設計者の業種と建築物の用途

戦後の『新建築』誌上で紹介された建築物のうち、銀座デザイン協議会が創設される2006年以前に竣工したものは48件にのぼる（表1）。設計者の業種の内訳はアトリエ系設計事務所が31件、組織系設計事務所が6件、ゼネコンが11件とアトリエ系設計事務所が最も多い。そして日本を代表する商業地でありながら設計者のほとんどが日本国籍の建築家・企業であり、外国籍の建築家による設計は4件にとどまっている。用途の内訳では商

表1. 銀座に竣工した建築物のうち『新建築』誌に掲載されたものの一覧

掲載号	竣工年	名称	新築／改修	設計	用途	高さ (広告物含) (m <sup>2</sup> )	地上 階数	地下 階数	建築 面積 (m <sup>2</sup> )	ファサード					前面 空地	外構・1階床面	銀座に 関する 記述
										壁面の 形状	パターン	看板 広告	1階 開口部	ショー ウィンドウ			
1947.3	1947	銀座風月堂	新築	村田政真	商業		1			複合	全面ガラス	壁面	全体	○		木材	
1948.9	1948	東洋電極工業事務所	新築	海老原一郎	事務		2			平面	横強調	壁面	全体			木材	
1948.9	1948	銀座・山本	改修	広瀬鎌二	商業		2			平面	縦強調		全体	○		花崗岩	
1952.1	1951	オリンピックビル ディング	新築	竹中工務店	商業	28.6	7	1	478.1	平面	横強調	袖	全体	○		大理石	
1952.4	1952	大和ビルディング	新築	清水建設	商業・事務	19.6	5	1	191.4	平面	縦強調		一部			大理石	
1952.5	1952	きっちんえな	改修	田中四郎	商業		1			平面	全面ガラス	壁面	全体			ヒノキ	
1952.6	1952	銀1ストア	新築	後藤一雄	商業		2			平面	縦強調		一部	○	○		○
1953.12	1953	銀座御木本真珠店	新築	戸田組	商業		3		173.4	平面	全面ガラス	壁面	一部	○		御影石	○
1961.3	1961	東芝銀座ビル	新築	松田平田設計	商業・文化		8	2	381.3	平面	縦強調	壁面・袖	全体			大理石	
1962.11	1962	資生堂会館	新築	谷口吉郎	商業		9	1	320.8	平面	横強調		全体	○		大理石	○
1963.3	1963	三愛ドリームセン ター	新築	日建設計(林昌 二)	商業・事務	31(48)	9	2	221	曲面	全面ガラス	壁面	全体		○	花崗岩	○
1963.9	1963	リッカー会館	新築	鹿島建設	事務		9	3	888.3	平面	全面ガラス	屋上	全体	○			○
1965.1	1965	大倉本館	新築	大成建設	事務	31	9	3	407.2	平面	横強調	袖	全体				
1968.2	1967	静岡新聞・静岡放送 東京支社	新築	丹下健三	事務	57	12	1	162	複合	全面ガラス	壁面	一部		○		○
1970.11	1970	サッポロ銀座ビル	新築	大成建設	商業・事務	34.9(41.5)	10	2	398	平面	全面ガラス	壁面	全体			御影石・絨毯	○
1971.11	1971	銀座カリオカビル	新築	倉俣史朗	商業・事務		7	1		平面	縦強調		一部				
1974.3	1974	Leeビル	新築	K・M・G建築事 務所	商業		8	1		曲面	全面ガラス		一部				
1974.7	1974	天賞堂ビル	新築	日建設計(林昌 二)	商業					平面	縦強調	壁面	全体	○			
1975.5	1975	資生堂ザ・ギンザ	新築	芦原義信	商業	31(35.3)	8	2	370.6	平面	横強調	壁面	全体				○
1985.1	1976	吉兆 東京(第1期)	新築	吉田五十八	商業		3	1		平面	その他		一部				
1978.3	1977	銀座中のや	新築	黒川雅之	商業	21.4(24.3)	6	1	84.8	平面	横強調	袖	全体	○		タイル	○
1979.3	1978	金田中	新築	杉山隆	商業	14.6	3	1	571.7	平面	横強調		一部				○
1979.3	1978	香麗園ビル	新築	曾根幸一	事務		7	1	601.1	複合	横強調		一部			大理石	○
1981.11	1981	リクルート銀座ビル	新築	入江三宅設計	事務	44.8	11	3	1285	平面	全面ガラス	壁面	一部			大理石	○
1982.6	1982	銀座・数寄屋橋交差 点	新築	山下和正	事務		2		27.6	複合	横強調		一部			レンガ	○
1982.8	1982	新橋演舞場・日産自 動車新館	新築	日本設計	文化・事務	74.1	5	17	3608	平面	横強調	自立	一部		○	大理石・カー ペット	○
1984.1	1983	マガジンハウス	新築	第一工房	事務	35.5	8	2	1164	複合	横強調		全体			御影石	
1985.1	1982	吉兆 東京(第2期)	新築	野村加根夫	商業	29.2	7	2		平面	その他		一部				
1985.1	1985	銀座G&Sビル	新築	東直彦	商業	25.3	7	1	94.6	平面	全面ガラス	自立	一部			御影石	
1986.2	1985	オフィスマシン	新築	難波和彦	事務	28.6	8	1	122.4	平面	格子	袖	一部			コンクリート	
1987.6	1987	銀座テアトルビル	新築	菊竹清訓	宿泊・商業・ 文化	57.75	12	2	2032	複合	格子		一部			大理石	○
1992.2	1991	DNP銀座ビル	新築	竹中工務店	文化・事務	31	6	1	219.7	平面	横強調		一部			花崗岩・大理石	
1992.2	1991	王子製紙本社ビル	新築	KAJIMA DESIGN	事務・文化	81.4	15	4	1133	平面	縦強調		一部		○	花崗岩・大理石	○
1993.2	1992	銀座清月堂ビルデ ィング	新築	柿沼守利	文化・商業	24.3	6	2	160.3	平面	格子		全体		○	堆積岩	
1994.5	1993	銀座DTビル	新築	久米設計	事務	26.2	7	1	102.7	平面	全面ガラス	自立	一部			花崗岩	○
1995.9	1995	新橋 松山	新築	板垣元彬	商業	11.1	2	1	411.9	平面	その他		一部			御影石	
1999.8	1999	カルティエ銀座ビル	改修	ジャン・ミシェ ル・ヴィルモット	商業	35.3	9	1	162.3	平面	縦強調						
2000.12	2000	読売広告社	新築	日本設計	事務・商業	39.9	9	2	524.2	平面	全面ガラス	壁面	全体	○		花崗岩	○
2001.4	2000	東京銀座資生堂ビル	新築	R.ポフィル	商業・文化	54.8	11	2	322.6	平面	縦強調		一部	○		花崗岩	○
2001.8	2001	メゾンエルメス	新築	R.ピアノ	商業・文化	47.9	11	3	481.2	平面	全面ガラス		全体	○		プレコン・大 理石	
2001.9	2001	GINZA GREEN	新築	竹中工務店	商業	55.9	12	2	288.8	平面	全面ガラス	壁面	一部			花崗岩	○
2003.1	2002	うおがし銘茶 銀座店	新築	野沢正光	商業	9.9	2		43.6	平面	全面ガラス		全体			石灰岩	
2004.1	2003	時事通信ビル	新築	KAJIMA DESIGN	事務	73	14	2	2027	平面	縦強調	壁面	一部		○	コンクリート・ 花崗岩	
2004.1	2004	ルイ・ヴィトン銀座 並木通り店	改修	青木淳	商業	28.8	7	1	266.2	平面	格子	壁面	一部	○		ライムストーン	
2004.11	2004	交詢ビルディング	新築	清水建設	商業・事務	47.9	10	2	1878	平面	全面ガラス		一部	○		御影石	○
2004.12	2004	デオール銀座	改修	乾久美子、デ イオール	商業	31.6	8	2	264.8	平面	その他	壁面	一部	○			
2005.2	2004	CHANEL銀座ビル	新築	P.マリーノ	商業・事務	55.9	10	1	622.1	平面	全面ガラス		全体	○			○
2006.1	2005	MIKIMOTO Ginza2	新築	伊東豊雄	商業	56.5	9	1	237.6	平面	その他	壁面	一部			御影石	

業用途を含むものが33件と最も多かった。

(2) ファサードのデザイン

街並みに大きな影響を与えるファサードに関して、まず壁面形状の類型化を行った。「平面」「曲面」「凹凸」とそれらの要素が組み合わせられた「複合」の4種類に分類すると、平面型が39件、曲面型が2件、凹凸型が1件、複合型が6件と平

面型が大半を占めている。また時代別の傾向に注目すると、1980年代までは平面型以外のタイプが存在していたものの、1990年代以降に竣工した建築物は全て平面型であることが明らかになった。

またショーウィンドウを設置している建築物は16件あり、そのうち15件が商業ビル(用途混合の建築物を含む)であった。一方、1980年代-

1990年代に竣工した建築物にはショーウィンドウを設置したケースが見られず（そのうち6件は商業ビル）、2000年代に入ると再度多くの商業ビルにショーウィンドウが設けられるようになる。そして商業ビル以外では唯一リッカー会館（1963年竣工）がオフィスビルであるにもかかわらずショーウィンドウを設置していた。

### (3) 前面空地の有無

前面空地を設けている建築物は7件に留まっている。これには地価の高さから床面積を最大限確保したいという意図が共通して見られ、さらに銀座は東京の他の商業地と比較して敷地割が細かく、各

建築物の建築敷地が小さくなることから、前面空地を設けづらいという状況も存在すると考えられる。

## 2.2 設計者の言説に見る銀座の地域イメージと空間デザイン手法

誌上に掲載された設計者の言説のうち、22件において銀座の地域イメージや既存都市環境の評価に関する記述が見られた（表2）。これらを概観すると、「外部者」の立場にある各設計者が銀座という地域のイメージをどのように捉え、そのイメージを空間に反映しようと試みたのかが理解できる。本稿ではその中でも銀座通り（中央通り）に建設

表2. 『新建築』誌における銀座の地域イメージや既存都市環境に関する記述

竣工年	名称	設計	記述
1952	銀1ストア	後藤一雄	露店的な一店一店の極小単一企業を集めた集団をそのまま均等に屋内に持ち込みたい
1953	銀座御木本真珠店	戸田組	銀座という商業戦華やかな地域に建つ商店建築として、次の諸点に設計上の基本方針が求められた。宝石の持つ品位を建物全体に表現する。自然光線の利用に依り、商品の正確な光沢を展示すること。既存売場で営業しながら施工する。工期の短縮化を図ること。敷地を最大限に利用する。
1962	資生堂会館	谷口吉郎	銀座の町角になつた高層建築として、この店に新しい魅力を添えることも重要な課題となった。いろいろ考えたあげく、私はこの店の店頭を、一つの大きな「とこのま」に見立て、それを道行く人の共有の美的鑑賞の場としてみたいと考えた。
1963	三愛ドリームセンター	日建設計（林昌二）	銀座にふたたび灯をともしようという試み／売上げによってはもうその繁栄の限界に達したこの地区が、直接の売上げを目的とはしないこのような計画によって、その新しい開発の可能性をみずから発見できるか／（鏡張りの防火壁は）周囲のネオンを極彩色に映し出す部分
1963	リッカー会館	鹿島建設	場所柄、建物それ自体の広告価値は、むしろ夜の方が大きいと言える。ここでは各階庇に埋め込まれた250Wの水銀灯から、上向きに庇裏を照らし、高原をできるだけ感じさせずに効果を上げようと考えた。
1967	静岡新聞・静岡放送東京支社	丹下健三	東海道新幹線から、あるいは羽田からアプローチする場合に、都心へのひとつの玄関先といったシンボリックな性格の場所／数寄屋橋通りの町並みを考えると、そのスケールは、柱スパンやサッシュ割、ショウ・ウィンドーなど、ヒューマンスケールが基調である。そんな町並みが隣まできているが、この敷地あたりでアーバン・スケールを受け止め、ヒューマン・スケールへと変換してやる必要がある
1970	サッポロ銀座ビル	大成建設	建蔽率を100%とすれば、地下2階、地上6階程度の建物になるが、（銀座4丁目交差点を構成する）他の3つの建物との釣合からしても、場所柄からしても高い建物にしたいところである。それで構成的なおもしろさと大きさをだすために、容積率内で可能な限りの空間表面を試みた。
1975	資生堂ヤ・ギンザ	芦原義信	銀座通りに面して区道を挟んだ7丁目と8丁目の一角は、歴史的にみても、いわば資生堂地区のような場所であるから、街路と1階の空間をどのような形で一体のものにするかが計画のポイントとなった。／細長い空間を細長く平行に利用することが、かえってインテリア空間のボリュームをダイナミックに捉えられるのではないかと考えた結果、1階の商品を完全に俯瞰できるように道路面より1.8m下げ・・・
1977	銀座くのや	黒川雅之	銀座という特殊な地域を持つ地理条件、現代の産業社会の中での経済・経営の平面、これらが相矛盾しながら均衡を保つ、生きたことだけの建築を求めて描かれた解である。／従来の市街地建築にありがちな街路から行き止まりの平面構成を避け、裏に通ずる通り抜けの平面構成をとっている。くのやが本質的に持つ空間の質の一つは店がすなわち家であることである。
1978	金田中	杉山隆	場所の将来を見極め、ここに建築する建物はただの料亭だけの建物ではなく、これから新築する計画のある新橋演舞場とのつながりを考えてこの地域の町づくりの一環とし、劇と日本料理の迎賓館として日本人また世界の人々に喜んでいただけるような雰囲気のある日本建築を目標として設計しました。
1978	香鯉園ビル	曾根幸一	銀座の裏通りにあり、周囲はすっかりと建ちあがっている。それだけに、ここに嵌め込まれる建物が街並みにある種の作用と関係を持つのは当然である。敷地にひきをとり建物を高く構えて人の溜まりをつくるのもひとつの方法である。しかし、人の流れと接する部分を最大に確保するという要請が、隙間や広場の持つ魅力を凌駕する場合も少なくない。
1981	リクルート銀座ビル	入江三宅設計	敷地の選択および外観の決定については、近くを通る新幹線や国鉄諸線、高速道路、電通通りの車や新橋駅からの見え方などが重要なファクターとなった。
1982	銀座・数寄屋橋交差点	山下和正	外壁は明治の銀座レンガ街にちなみ・・・最新技術によるレンガパネルによるカーテンウォールを採用した。
1982	新橋演舞場・日産自動車新館	日本設計	総合設計制度を取り入れることにより、斜線制限を緩和し一般規制より多い天空率を確保しながら、地域に好ましい形態を求めた。地域冷暖房フロントスペースや公共性の高い広場に緑を計画し、旧演舞場が建てられていた時よりもはるかに良い環境が計画された。／今回の設計に際しては大正14年の旧演舞場設計の精神をデザインの原点とし、その良さを可能な限り継承することに努めた。
1987	銀座テアトルビル	菊竹清訓	客室以外は全て銀座の店とし、日本最高の商業集積をもつ銀座と共存を計ろうとする特異性を持っている。
1991	王子製紙本社ビル	KAJIMA DESIGN	銀座という街の記憶の集積＝文脈（コンテクスト）に応答して、これを顕在化させると同時に、企業と街の発展、いい換えれば、未来の記憶を予感させるオフィスビルを想い描いた。／外観は、王子製紙や銀座という街のもつ伝統性や発展性といったイメージに呼応して、やや古典的な表情の基壇部に、垂直性の強い胴部と端正な影を落とす格子状の頂部をのせる構成とし、皮膜的なもの、退屈で均質的なデザインを避けた。

1993	銀座 DT ビル	久米設計	銀座という街の舞台裏と化したこの狭隘な路地空間に、新しい都市的な閃きや刺激を与えることを意図して、いくつかの建築的仕掛けを基本的な外観構成要素として導入した。
2000	読売広告社	日本設計	銀座は世界的な商業都市で華と色気のある街である。中央通りはその中心で目抜き通りだが、デパート以外は間口の小さな建物がほとんどで、必ず看板がついている。手前側の通りに沿って街並みを見ると看板がびっしり並んで見えるだけで、車道側に遠のいてみても看板と建物のファサードの比が1:1に見える程度である。このような街並みを背景とし、その雰囲気と相対的にマスを構成することで建築を際立たせるために、外観はシンプルで透明な表現とした。／賑わいの絶えない中央通りがあるうえに、それだけでなく堅く活気の乏しいオフィスビルの新しい佇まい方、街に賑わいを与えることの重要性を考え、クライアントは積極的に1、2階をテナントに提供した。
2000	東京銀座資生堂ビル	R.ポフィル	銀座8丁目という具体的な敷地と共に、資生堂、銀座、時代、人間という4つの場の力が重なるフィールドを「もうひとつの敷地」ととらえ、その歴史と可能性を創造的かつ戦略的に解析したうえで「与件」そのものを構築するところから始めた。／設計作業中に導入された機能更新促進型の規制緩和の第一号に本件が適用されたことで、より重要性を増すこととなった。
2001	GINZA GREEN	竹中工務店	銀座の風格を示す秩序ある正方形グリッドフレームのガラスカーテンウォールとハイドロテクト・タイル貼りの壁面で校正された。
2004	交詢ビルディング	清水建設	設計に際し、築70年を経た交詢ビルを観察し、輝くオーセンティシティを探し求めた。その結果、この建物を成立させている当時のモダニズムの母体上の無数の記号（パーツ）を読み取り、再構築することとした。
2004	CHANEL 銀座ビル	P.マリーノ	シャネルは銀座を拠点とすべきだという強い信念がありました。しかも中央通りに面することにこだわったのです。（中略）中央通り、マロニエ通り、ガス灯通りという3つの街路に面し、街に対して自らのコンセプトがさまざまな表現し得ると期待したわけです。それと同時に、この街に対し本物のビルをつくらなければという大きな責任も担いました。

された建築物に注目し、言説を詳細に考察する。銀座通りは銀座のメインストリートとして地位を古くから確立している場所であり、銀座の地域イメージがより強く認識されていると考えられる。

### 3. 地元主体によって見出されてきた地域イメージと空間デザイン手法

銀座通連合会の定時総会や常務理事会の議事録といった内部資料や読売新聞・朝日新聞・毎日新聞のデジタルアーカイブによる新聞記事から、地元主体である銀座通連合会の戦後における地域イメージの形成とそれに関連する空間デザイン手法について整理を行った。

#### 3.1 戦災復興期

1945年12月、空襲で大きな被害を受けた銀座の復興計画として、連合会は独自の復興計画の中で建物高さの最低限度を指定する提案を行い、通りを構成する建築物に一定の統一感をもたらす必要性を主張した。そして現実的な取り組みとしては銀座に本社を置く大倉土木（現大成建設）に銀座通り一帯に木造の仮店舗の建設を依頼し、ファサードにショーウィンドウと商品のイラストを描いた看板を設けることを定めた。当時の連合会はショーウィンドウを含む店頭装飾と店内照明の指導を業務の一つとしており、ショーウィンドウを重要な景観要素として認識していたことが理解できる。

#### 3.2 高度経済成長期

1957年、連合会は将来の銀座の空間デザインに関して懸賞論文の募集を行った。これには273点の応募があり、都市社会学者・磯村英一や建築家・谷口吉郎ら9名の審査員によって入選案が選出された。そして翌年、それらの入選案を磯村が総合的に取りまとめたものが銀座通連合会の運動方針として採択された。その基本方針は「都電の廃止と電線の地中化による街路空間の整理」「建物の高さ統一と共同建築の建設」「銀座全体を一つのショーウィンドウ的構造に」というものであり、戦災復興期からの問題意識を継承している。

1960年代には銀座通りの道路空間整備に向けた運動に取り組み、建設省国道事務所に車道を走行する路面電車の廃止と、線路の敷石に利用されている御影石を歩道の舗装に転用することを提案し実現させている。その際、戦前から植えられてきたヤナギの街路樹を撤去し、シャリンバイに変更する決断をしているが、これはヤナギが慢性的な生長不良に陥っていたという背景に加え、ヤナギという樹種がもつ雰囲気、近代建築が建ち並ぶようになった銀座通りにふさわしくなくなったと判断されたことが影響していた。

#### 3.3 1970年代以降

1970年代には、戦後になって銀座に急増した銀行に対して働きかけを行うようになった。1972

年、連合会は全国銀行協会連合会に対して銀座通りにおけるこれ以上の新規出店を見送ることを求めた。申入書には「既存の銀行については、将来あらゆる機会に1階部分を商店等に開放し、死角化防止を検討されたい」「繁華街銀座の姿を地元との共存共栄の線に沿って維持されるよう御検討いただきたい」という要求も記された。当時の銀座通りには金融機関が14店舗立地しており、店舗が15時に閉店してしまうことやファサードが閉鎖的で歩道に対して開かれていないことが問題視された。その後、出店を計画していた太陽銀行と協議を進め、新店舗に関して「ショーウィンドウに地元取引先の商品を陳列する」「夜間にも照明を点灯させる」などの条件で合意に至った。

#### 4. 既存ストックを活用した都市環境デザインの実践

戦後の銀座で建設された建築物の空間的特徴や設計主体・地元主体が見出してきた地域イメージを踏まえ、銀座における既存建築物を活用した空間デザインの実践に取り組んだ。HULIC株式会社と小林・楨デザインワークショップ（KMDW）と連携し、HULICが所有する土地に、KMDWと共同で設計・施工を行った。2023年7月12日～7月30日に、HULIC銀座7丁目昭和通りビルにて社会実験として実施し、多様な方が利用できるユニバーサルスペースを合板によるモックアップとして制作した（図1）。当ビルは1962年竣工の賃貸



図1. 社会実験の様子

事務所であり、2023年中の取り壊しが決定していることから空きビルとなっていた。上記の調査から、銀座においては前面空地を設けている建築物は少なく、地元の認識としても、歴史的に建築物の壁面ラインが揃った街並みに対して価値を見出す向きが強いが、当ビルには壁面をセットバックさせ、前面空地を駐車場として利用していたため、このスペースを利用して周辺の建築物との一体感を生み出す空間構成を施した。今回設けた設備はバリアフリートイレ・授乳室・ウォーターサーバー・wi-fi レンタルサービス・休憩スペース・電動椅子レンタルサービスであり、期間中339名の利用が見られたほか、銀座通連合会や障がい者団体などの関係者を招いたワークショップも実施した。

#### 5. むすび

本研究では開発主体と地元主体が形成してきた実践の展開を整理することで、双方が互いに影響し合いながら地域イメージを形成し、そのイメージが空間デザインに反映されてきたことが明らかになった。特に道路に面した建築物の壁面部分や外構に関して強い特徴が見られ、ショーウィンドウの設置や壁面ラインの統一などの点については地元主体が認識する地域イメージを反映させる結果になることが多かった。また外構の舗装についても地元主体の運動によって実施された歩道舗装との一体感を生み出すことが企図された事例が多く見られた。実践としての社会実験では、地元で醸成されてきた地域イメージとは異なる空間的特徴を有する建築物において、既存空間の活用という形で空間デザインを実現できることを示した。既存空地の活用については指定容積率や附置義務駐車場との兼ね合いが強く、課題も多く見られるが、今回明らかにされた地域イメージの空間化手法の蓄積は、今後の空間デザインにおいても多くの知見をもたらすものであると考えられる。

## 6. 発表（研究成果の発表）

- ・宮下貴裕（2023）「東京・銀座における附置義務  
駐車場地域ルールの変遷と都市環境形成への影  
響に関する一考察」日本建築学会技術報告集 30  
（74） pp. 393-398